

信用格付を付与するために用いる方法の概要(金融機関(保険会社と不動産投資信託を除く))

単独ベースの信用特性及び支援：フィッチが銀行及び銀行以外の金融機関又はその持株会社に付与する発行体デフォルト格付(IDR)は、銀行及び銀行以外の金融機関の単独ベースの信用特性と潜在的な支援の双方を考慮している。銀行及び銀行以外の金融機関の存続性格付(VR)又はスタンドアローン信用特性(SCP)は、単独ベースの信用特性、すなわち固有の信用力を捉えている。一方、必要な場合に外部支援を受ける蓋然性を、政府サポート格付(Government Support Rating、GSR)又は株主サポート格付(Shareholder Support Rating、SSR)に反映している。銀行及び銀行以外の金融機関の単独の財務力のみを考慮して表されるVR又はSCPと外部支援のみを考慮して表されるGSR又はSSRの、2つの水準のうち、高い方を長期IDRとして付与する。

定性的及び財務的要因：銀行のVRを付与する際には、まず事業環境を評価し、次にこれをその他6つの主な格付決定要因(KRD)の評価に反映する。これらは、事業特性、リスク特性、及び4つの財務的要因(資産の質、利益及び収益性、資本基盤及びレバレッジ並びに資金調達及び流動性)である。リスク特性以外はすべて定量的要因を有しており、リスク特性のみ定性的に評価される。各KRDのスコアに所定のウェイトを適用してインプライドVRを導き出し、その後、分析的判断に基づいて調整を行い、最終的なVRを決定する。

銀行以外の金融機関のSCP又はVRの評価では、まずセクターリスク事業環境(SROE)を評価し、これを事業特性、経営及び戦略、リスク特性、及び4つの財務特性(資産の質・資産のパフォーマンス又はカウンターパーティーエクスポージャー、利益及び収益性、資本基盤及びレバレッジ、資金調達・流動性及びカバレッジ)という7つの主な格付決定要因(KRD)の評価に反映する。各KRDのスコアに所定のウェイトを適用してインプライドSCP又はインプライドVRを算出し、その後、分析的判断に基づいて調整を行い、最終的なSCP又はVRを導き出す。ウェイトはバランスシートの使用度が高いビジネスモデルと低いビジネスモデルに応じて異なる。

支援要素：フィッチは、通常、より信頼性の高い支援源と考えられるものに応じて、GSR又はSSRのいずれかを付与する。これらの格付は、銀行及び銀行以外の金融機関が必要な場合に管轄国の政府当局又は株主のいずれかから特別な支援を受ける蓋然性についてのフィッチの見解を反映している。フィッチは、特別な支援を提供する能力及び支援性向について、それぞれに関連する各種KRDを考慮して評価している。

債務格付：銀行及び銀行以外の金融機関の長期債務格付には、当該債務がデフォルト（債務不履行）する蓋然性の評価と、デフォルト（債務不履行）時における債権者の回収見込みに関する見解が含まれる。

銀行及び銀行以外の金融機関の無担保一般債務の格付は、通常、長期 IDR と同水準になる一方、劣後債務及びハイブリッド債務は、通常、VR を起点にノッチダウンされる。

政府支援考慮前格付：銀行及び銀行以外の金融機関に対する政府の特別な支援の想定を考慮しない発行体固有の信用力を表す政府支援考慮前（Ex-government Support (xgs)）長期 IDR（長期 IDR (xgs)）は、通常、銀行及び銀行以外の金融機関の既存の VR と同格である。短期 IDR (xgs) は通常、長期 IDR (xgs) が付与されている銀行及び銀行以外の金融機関に付与され、短期格付対応表に従って長期 IDR (xgs) からマッピングされる。政府支援考慮前格付は長期又は短期の IDR、及び長期又は短期の債券格付に付与されることがある。

子会社の政府支援考慮前 IDR は、子会社の VR と株主サポートのいずれか高い方によって決定される。株主の格付に政府支援が含まれる場合、子会社格付は株主の長期 IDR (xgs) を起点にノッチ調整される。

本格付方法の詳細については、「Bank Rating Criteria」（2026 年 5 月 8 日付）及び「Non-Bank Financial Institutions Rating Criteria」（2025 年 1 月 31 日付）をご覧ください。